

インフルエンザ治療薬「タミフル」 服用後に転落死…



秦野 竜子

なんか、おかしい

今から21年前、私の息子に起きたことです。

今年の冬もインフルエンザは流行っていて、SNSなどには、お子さんが何かに怯えるのを抱きかかえる親御さんが「インフルで異常行動です」という動画が掲載されています。

最近、インフルエンザの治療用薬剤が新たに次々と発売され、タミフルという言葉が聞かなくなった気がします。他方、インフルエンザになると異常行動になるかもしれないということは誰でも聞いたことがあることとなっています。「インフルエンザで異常行動」という報道や動画に接すると、私は違和感を覚えます。

なんか、おかしい。

インフルエンザに罹ったのに…事故死？

20年以上前、私たち（薬害タミフル脳症被害者の会）の家族がタミフル服用後に死亡したことが報道されるまでは、インフルエンザに罹ったことで、マンションから転落するとか、トラックの走る国道に自ら身を置いて命を落とすような事態が起こるなど、誰も聞いたことがなかった、と思うのです。

それまでは、インフルエンザ脳症で熱せん妄などはありませんでしたが、でもその症状は、熱による幻覚やうわ言を言って震えるような状態であり、転落事故や勢いよく道路に飛び出して交通事故にあうなど、聞いたことはありませんでした。

なんで？ なぜこんな突然死なの？

このような疑問から感染後処方され服用した、当時の「新薬タミフル」による害反応が原因だと、私たちは発信してきました。

しかし、タミフルの害なのに国がタミフルの害を認めなかったことで、現在では、服用後の異常行動は「インフルエンザの症状」として注意喚起されるようになってしまいました。

現在は、タミフルの害を訴えていたことは過去の話となり、知っている人も少なくなりました。

今一度、あの時何があった、副作用救済から最高裁まで訴え続けたのかを振り返ってみます。

死亡までの経緯

2005年2月5日、私の息子はタミフル服用後異常行動により自宅マンションの9階から転落死しました。当時中学2年生14歳でした。

前日から高熱があり、翌日も39度と熱が上がっていたため近くの内科医院を受診しインフルエンザA型と診断を受けタミフルカプセル4日分を処方されました。

高熱のため何も食べることができず、午前中の受診後ずっと横になって寝ていました。しっかり寝たためか汗もしっかりかいて2回パジャマを着替えました。午後4時には37.5度に下がっており、お粥をおかわりするほどでした。この時に初めてタミフル1カプセルを服用させ、まだ安静にしているようにと自室にて休ませました。

午後6時過ぎ、玄関の閉まる音がして息子を見に行ったら、自室にはおらず、玄関を出てみると1階駐車場に転落していました。救急搬送され病院でも手を尽くしてもらいましたが午後11時、息を引き取りました。

科学的根拠あり簡単に認められると思っていた…

ただインフルエンザに罹って寝ていただけなのに、どうして転落してしまったのか。

分からない日々を過ごしましたが、友人たちの助けもあって、インターネットの子供の病気や薬について話すサイトに投稿してみました。すると薬害を訴えている団体の方などから声を掛けていただき、医薬ビジネスセンターの浜六郎医師と連絡が取れ、タミフル服用による副作用であろうとのことで、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（略：PMDA）へ副作用被害救済申請をしました。

しかし、申請から1年後2006年7月に届いた通知